



地球にやさしい

環境 循環 システム

ウルトラバイオN1

エヌ ワン

酵素活性化法有機廃棄物処理

有機廃棄物処理システム

廃棄物が有機物分解システムにより処理され、再利用できるようになります。

酵素活性化処理方式とは

自然界のリサイクルシステムのひとつである、酵素分解を用いた処理システムです。生ごみ・野菜くずなどの有機物を、酵素活性補助材と専用混練機で一次発酵させ、2週間熟成させるだけで有機成分を分解します。熟成後は酵素資材としての機能を回復し、母材として半永久的に繰り返し利用できます。

酵素分解処理の性質

- ①分解速度が速い
- ②強酸・強アルカリ・塩分に強い
- ③安全性が高い

酵素活性化処理システムの特徴

『施設外への持出し』が無い……………

減容化率99%以上の分解能力を持ち、熟成後の堆肥は循環母材として繰り返し利用します。よって、余剰堆肥などの施設外搬出は一切ありません。又、分解中の臭気も殆んど無く、労働環境が改善されます。

『需要に応じた堆肥供給が可能』……

2週間経過後の母材は堆肥としても利用する事が出来ます。搬出分をおが屑などで補充すれば、循環母材としての機能も全く失われません。需要がある時のみ供給する理想的なシステムを実現します。

『ローコスト運営』……………

分解処理に必要なエネルギーは、30分混雑時の消費電力のみ。乾燥機なども使用しないため、余分な設備維持費やエネルギー費も不要です。又、何度も切り返しの必要が無いのでその人の人件費も削減できます。

廃棄物処理なら
ウルトラバイオN1が
解決します!

家庭系廃棄物



農産廃棄物



食品工場系廃棄物



有機廃棄物処理について

現状では生ゴミや豚・牛・鶏・馬糞など畜糞の有機廃棄物、汚泥処理に困り、多くは焼却・埋め立て・野積み等で対応しエネルギー消費や環境悪化が社会問題となってきました。そこで弊社では生体触媒機能をもつ酵素活性補助材を用いそれら「有機廃棄物をより消滅分解」させる優れた技術を提案いたします。

酵素活性化作用補助材の有機物分解原理

生体触媒機能
||
生物化学分解により
有機物を消滅

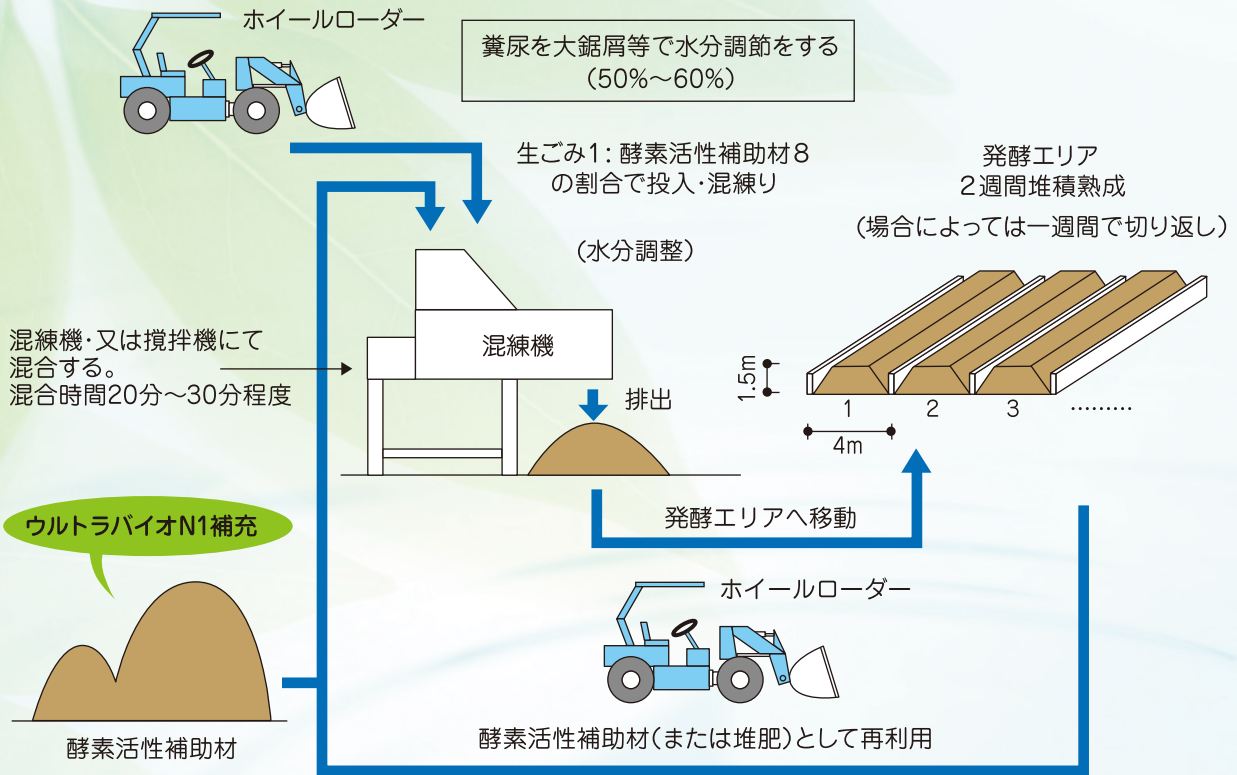
酵素活性化作用補助材は、動物の腸内微生物から誘導されたアミノ酸と酵素を豊富に作り出せる資材です。新陳代謝の原理で、酵素活性化作用補助材は有機物を餌として取り入れ分解し、自分の体細胞として置き換えます。よって有機物を継続的に取り入れても資材自身はその性質が変わらない為、永続的な効果を持ちます。

酵素活性補助材とは

酵素活性補助材=酵素代謝産物

酵素代謝産物とは、土壌微生物や動物の腸内細菌が有機物質等を分解・発酵していく過程で酵素を生成し、これを使って分解していく最終過程で作られた物をいいます。酵素代謝産物にはいろいろありますが、身近なところでは、味噌や醤油、納豆も酵素代謝産物を多量に含んだ食品であり、バターやチーズ、乳酸菌飲料等も広い意味での酵素代謝産物を含んだ食品といえます。また、分解力が大変強力でしかも分解に要する時間が極端に短く、家畜の糞尿や浄化槽の汚泥、生ごみ等の分解に威力を発揮します。また、発酵温度が低く、分解の途中でも殆んど悪臭が出ません。酵素代謝母液を希釈して、有機液肥として利用しますが、酵素代謝液をおが屑に含ませて発酵させたものを堆肥として活用することも出来ます。

標準システムフロー



営業項目

- 有機性廃棄物処理設備
 - ◎生ゴミ堆肥型処理
 - ◎畜糞堆肥型処理
- 脱臭装置
 - ◎密閉型気液混合消臭方式
- 酵素発酵飼料化システム